

国語部門



総評

今年の国語部門は、作文と読書感想文に絞った募集となりました。ともに学年が上がるにつれて競争や生命、人間の死をテーマにした作品が多くなり、時代を反映しているという印象を受けました。また、特に低学年の表現力の豊かさも、多様さには驚かされました。学校での作文指導の時間が減少傾向にある中で、持てる知識と表現方法を用いて、自分の思いを精一杯表そうという姿勢が感じられました。学習指導要領から「作文」という文書が消えた今、何をどのようにに表現するのかという基本的なことを見直す時期にあるのかもしれません。



文部科学大臣奨励賞

思い出の輝く「命」―夏の庭を読んで

山梨県 山梨英和中学校 2年

吉貝 尚子

おじいさんと過ごした特別な夏、彼らは大きく成長し大人になっていった。一人の人間に関わったことで、沢山の事を経験し、学び、それを確かなものとして自分の中に残すことが出来たのだと思う。おじいさんは、悲しみ以上に大切なものを少年達に残していかれたのだ。三人は、あの夏の庭を一生忘れることはないだろう。

私も、いつの間にか出口のない長いトンネルから抜け出せたような気持ちに変わっていた。「死」は終わりではなく「思い出」して永遠に心の中で輝き続けていることが分かったから。彼らと共に少し大人になったのかもしれない。―抜粋―

この物語の主人公たちと同じ、身近な人の死に直面するという経験をした筆者が、2年前に一度読んだことのある本書を少し成長した視点で読み深めた作品です。「死は終わりではなく「思い出」として永遠に心の中で輝き続けている」という、以前は思い浮かばなかった「死」に対する筆者の考えが、シンプルに伝わってきます。生きることへの人間的な想像力と落ち着いた、透明感のある語りで巧みに描かれています。



子どもの文化・教育研究所 理事長賞

ほくのバイオリン

鹿児島県 鹿児島市立南小中学校 1年

今村 彪雅

バイオリンですーいんだよ。いろんなおとがでるんだよ。

「きょうのバイオリン、やさしいおしね。」

つてママがいきました。だつてほくきょうとつて

もつれいことがあったんだ。ほくのあさがお

さいたんだよ。もろささいの大きなはな。太

すうにかつてにににして、

「おはよう。」

つていたんだ。(中略)

「きょうのバイオリン、かなしいおとね。」

つてママがいきました。だつてほくきょうとつて

もかなしいことがあったんだ。ほくの大きな

キートンがおほしきまにちやうたんた。(中略)

ねえ。バイオリンですーいでしょう。いろんな

おとがでるんですよ。だからバイオリンでほく

おとがでるんだよ。だつてほくきょうとつて

おとがでるんだよ。だつてほくきょうとつて

おとがでるんだよ。だつてほくきょうとつて

おとがでるんだよ。だつてほくきょうとつて

おとがでるんだよ。だつてほくきょうとつて

おとがでるんだよ。だつてほくきょうとつて

おとがでるんだよ。だつてほくきょうとつて



社団法人日本児童文芸家協会 会長賞

ママ

鹿児島県 鹿児島市立南小中学校 2年

今村 愛花

「ママ。」

私はお母さんのことをそうよびます。でもク

ラスのおと(中略)

「なんでもママていうの。おかしいよ。お母さん

て言わないといけないんだよ。(中略)

つて言われました。どうして、どうして。お母

さんはよくてママはいらないの。(中略)

そのよるママが、

「あい花おいで。」

つて私をママの上にのせました。そして、

「中略」 パパとママていうのは、あい花が

はじめてしゃべった大切な言葉なんだ。(中略)

パパとママがこんなふうに思っていてくれたん

で。私のこころいつもぼんにかんがえくれる

やさしいパパとママ。私は

「ママ。」

つてよんでました。

「な、い。」

つてママがこたえました。いいなあ。すてきな

なんだ心がホワーンとして、やさしい気持ち

になりました。ママママ、私の大きなママい

つてママてよびたいな。―抜粋―

周囲の友達に合せてお母さんと呼ぶこ

とに対しての気恥ずかしさ、抵抗感だけでな

く全体からママが大好きな様子がしっか

りと伝わってくる文章です。あたためた家庭

の様子が伺え、ほほえましい作品です。途中

ママが、愛花さんに聞かせる会話の導入は、

作品の仕掛けに効果的に働いています。



中央出版株式会社 社長賞

お姉ちゃんはずらひ

愛知県 刈谷市立小垣江小学校 3年

板倉 可奈

いつもお母さんは

「今、手が放せないから、ちょっと見てやて。」

と、弟のめんどうをなのみます。だから、わた

しが、ぬいぐるみや車であそぶやついると、

「もう、宿題は終わったの。」

とお母さんは聞きます。

「今、弟のめんどうを見てやてっているんだから、

できるわけないでしょ。」

とわたしはお母さんに言います。―抜粋―

年のはなれた弟の自由奔放な行動振り、と

それに振り回される筆者の苦勞話が実に素

直に表現されていて、読む人の目に情景が浮

かんでくる作品です。行間から、弟を想うお

姉ちゃんの気持ちが伝わってくる作品です。

優秀賞

「少年H」と平和を頼つ

山梨県 山梨英和中学校 2年

中村 瑞希

「ハッピーバースデー」を読んで

東京都 筑波大学附属中学校 5年

藤藤 琴音

風

千葉県 千葉市立都賀中学校 1年

宮城 南